授業科目	保育内容　表現					実務家教員担当科目	-
単位	1	履修	選択	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	金谷　めぐみ						
授業概要	この授業では、乳幼児の「表現」について解説すると共に、他の「領域」との関連から見た「表現」について解説する。音楽、身体、造形活動の表現についてワークショップを行い、最終的にそれらを融合した活動を通して、学生が自ら表現する感覚を味わうことのできるアクティブラーニングを実施する。保育者の「表現」に係わる知識・技能の習得ための演習を行い、乳幼児の「表現」を導くための知識・技能について指導案を作成し、発表を行う。						
授業形態	講義、演習			授業方法	ディスカッション、グループワーク		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	子どもの表現に関する今日的状況について関心をもつ（DP2-1，DP3-2） 表現に関する保育の展開を考え、指導案を作成することができる（DP1-2，DP5-2） ・子どもの表現に関する今日的状況について、各種資料を収集している ・音楽基礎知識を身体および造形の表現活動の実施に取り入れている ・表現に関する環境を通した保育の展開ができ、自らの保育の課題を挙げることができる
理想的レベル	・子どもの表現に関する今日的状況について、各種資料を収集・整理し他者に説明できる ・音楽基礎知識を身体および造形の表現活動の実践にと入りれ、実施することができる 表現に関する環境を通した保育の展開ができることはもちろん、自らの保育の課題を分析し、進んで向上させようとする

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト	40%	子どもの音楽的表現を引き出すための保育者としての基礎知識
レポート	20%	子どもの年齢および発達を考慮した表現活動について指導案を作成し、発表する
発表（口頭、プレゼンテーション）	40%	講義のまとめレポート（本講義で学んだこと、今後の自己課題を分析し、レポートにまとめる）
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	WE21620J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
予：保育所保育指針の関連部分を読む	1

授業計画	
第 1 回	オリエンテーション

	授業の進行方法・評価方法について説明する
第 2 回	領域「表現」 ５領域の中での「表現」の位置づけについて解説する
第 3 回	乳幼児の表現 1 乳幼児の表現について解説し、表現を引き出す方法について検討させる
第 4 回	乳幼児の表現 2 乳幼児の表現を引き出すための、保育者としての表現の重要性について解説する
第 5 回	保育計画の立案 1 保育計画立案のために必要な基礎的知識について解説する
第 6 回	保育計画の立案 2 部分保育指導案の作成方法を解説する
第 7 回	模擬保育 1 作成した指導案を基に、環境を通した保育の展開を模擬的に経験する
第 8 回	模擬保育 2 作成した指導案を基に、グループごとに環境を通した保育の展開を模擬的に経験する
第 9 回	模擬保育 3 作成した指導案を基に、グループごとに環境を通した保育の展開を模擬的に経験する
第 10 回	幼児の音楽表現 幼児の音楽表現を中心とする表現活動について解説する。
第 11 回	幼児の身体的表現 幼児の身体的表現を中心とする表現活動について解説する。
第 12 回	幼児の造形表現 幼児の造形活動を中心とする表現活動について解説する
第 13 回	幼児の表現活動の実践① 幼児の表現活動について発表する（１歳以上３歳未満児を対象とする）
第 14 回	幼児の表現活動の実践② 幼児の表現活動について発表する（３歳以上児を対象とする）
第 15 回	振り返りとまとめ
テキスト	・「楽しくうたあそび 123」川北邦子/坂本久美子　編著　ミネルヴァ書房 ・「ピアノテキスト」全国大学音楽教育学会　九州地区学会編　カワイ出版 ・「保育所保育指針」
参考図書・教材／データ	・「体を楽器にした音楽表現リズム＆ゲームにどっぷり！りとみっく 77 選　神原雅之著　明治図書 ・「こころとからだを育む１－５歳のたのしいリトミック　神原雅之著　ナツメ社

ベース・雑誌等の紹介	
課題に対するフィードバックの方法	①小テスト　点数をつけて返却する ②発表・指導案　コメンをつけて返却する ③レポート-　コメントをつけて返却する
学生へのメッセージ・コメント	・自身の表現の幅を広げるために、日常生活の中であらゆるもの興味・関心を持って関わるよう努めること ・ピアノ演奏法の技術の習得に励むこと ・保育所保育指針の「表現」に関する項目を熟読し、子どもの発達の特徴を理解すること ・常に「考える」ことを重視し授業を展開するので、自身の考えを持つこと、その考えを他者に客観的に説明することを習慣化しておくこと ・自身の体験で得た感覚を言語化できるように習慣化しておくこと